弟子屈町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

弟子屈町は、北海道の東部に位置し、摩周湖や屈斜路湖などの優れた景勝地や観光資源に恵まれていて、多くの観光客が車両で訪れている。
こうした現状から平成17年度に環境にやさしい観光交通体系の構築に向けた取り組みを開始、平成20年度には「弟子屈町地域公共交通総合連携計画」を策定し、弟子屈町の地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針を「環境にやさしく、生活交通と観光交通が一体となった地域交通体系の構築」として定め、公共交通活性化と観光交通体系構築との一体的な取り組みを推進してきた
また、令和元年度には、変化していく社会経済情勢に対応した地域公共交通網の形成に向けて「弟子屈町地域公共交通網形成計画」を策定し、高齢化社会を見据え、誰もが安心して暮らすことができるための交通網確立に向けて進めている。
地域における生活の足として、本町の地域間幹線であるJR釧網本線と接続したバス等の身近な公共交通を維持確保していく必要性は非常に高く、また、路線の見直しを行うことで、今後の利便性の向上や利用者数の減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能な公共交通体系として再構築することを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

H25年度事業で路線延長した美留和線に加え、H26年度には地域協働推進事業での利用者ヒアリング及びワークショップの意見を反映させた「川湯線」の路線延長を行うことで利便性の向上が図られ、更にH27年3月より利用者意見を反映させて「弟子屈市内線」の路線延長を行った。
目標数値としては人口減少を鑑み、年度毎の年間輸送人員をマイナス12%以内の減少に留めることとしている。
市内線目標値5,125人、美留和線目標値11,813人、川湯線で目標値6,016人、目標合計22,954人。

地域公共交通の現況

①JR釧網本線
（川湯温泉駅、美留和駅、摩周駅）
②阿寒バス（株）（町内5路線）

協議会開催状況

令和4年6月28日　第1回協議会を開催
〇主な協議事項
令和3年度事業完了報告、収支決算報告及び令和4年度事業計画等について
令和4年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

令和4年11月18日　第2回協議会を開催
〇主な協議事項
こども向けバスに乗ろう会結果
弟子屈えこパスポート事業（冬期）の概要について
地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

令和４年度事業概要

①美留和線　摩周営業所～摩周分岐～大鵬相撲記念館前（川湯温泉街と弟子屈市街を結ぶ路線（27.2km）。1日3.0回運行、150～840円の運賃）
②川湯線　大鵬相撲記念館前～苗畑入口～大鵬相撲記念館前（川湯温泉街とJR川湯駅を結ぶ路線（5km）。1日6回運行、160～290円の運賃）
③弟子屈市内線　桜町団地前～摩周駅～桜町団地前（弟子屈市内を循環する路線（20.3km）。1日4.0回（1,6便各1.0回）運行、150円一律運賃）

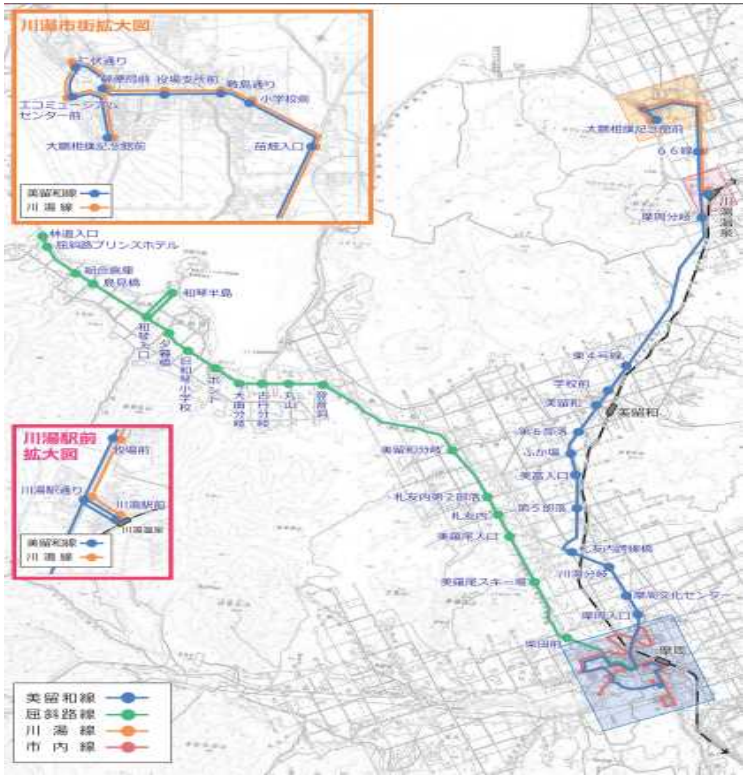
令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

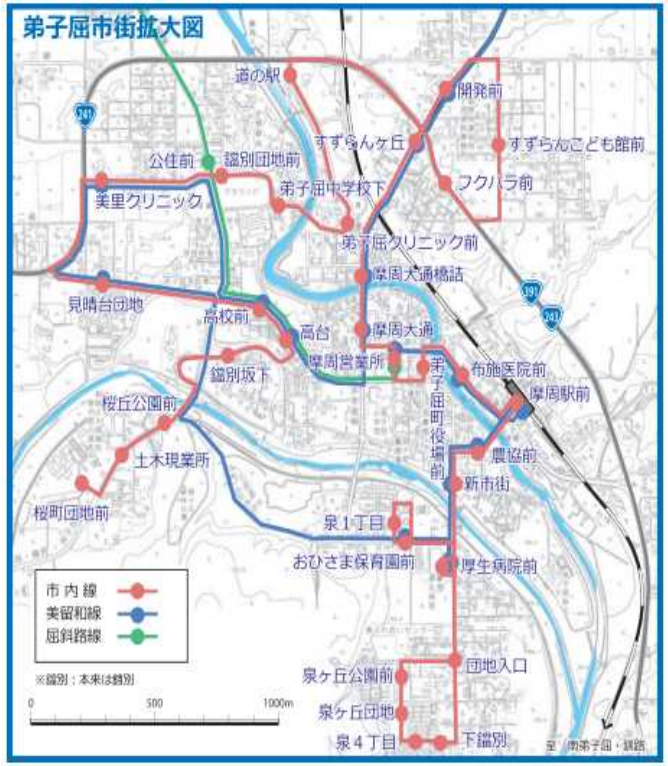
・最新情報に更新したバスマップを住民に配布した。
・町内の子どもたちの公共交通利用促進に向けた体験乗車会を実施した。
　※地域おこし協力隊員の協力の下、こども向けバスに乗ろう会の様子を動画配信した。

２）運行系統

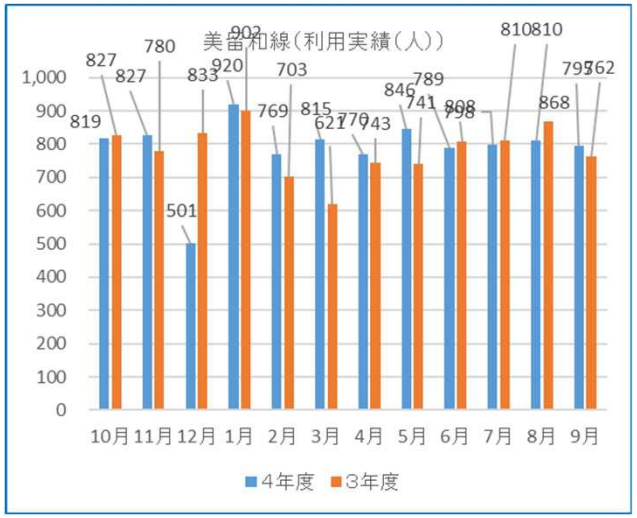
美留和線及び川湯線

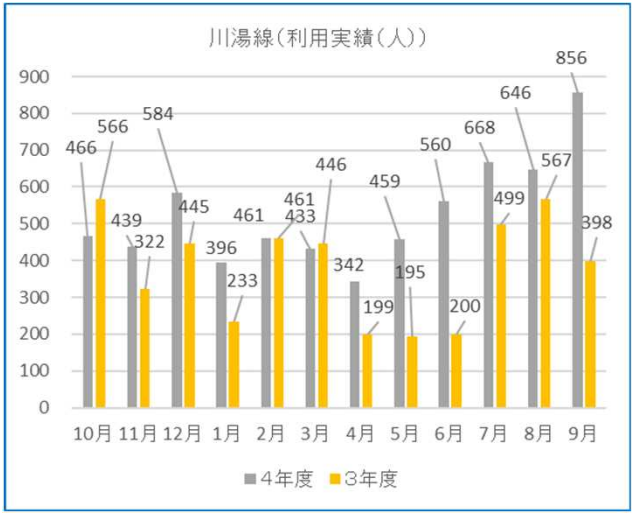


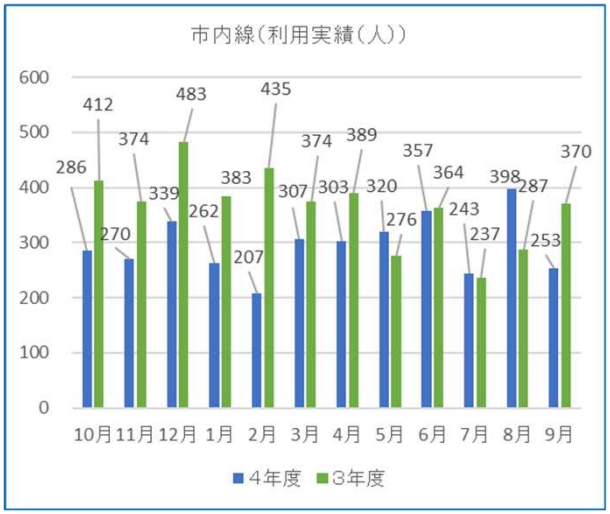
弟子屈市内線



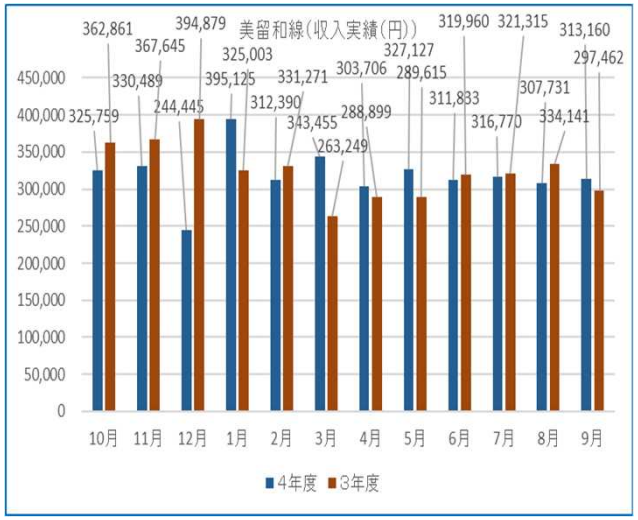
３）利用実績

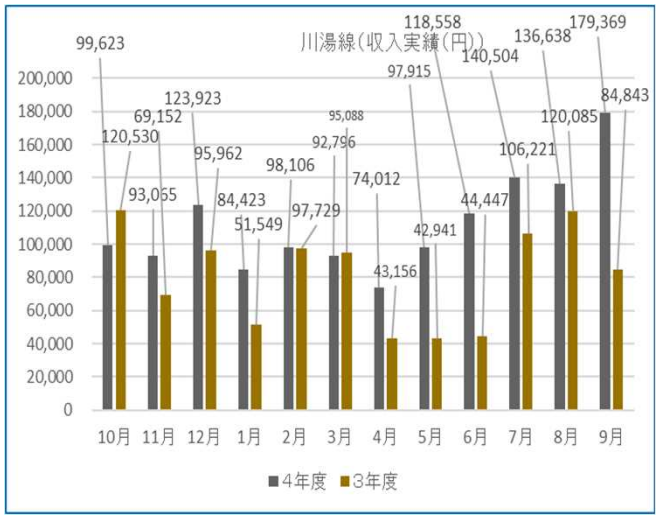

美留和線（利用実績（人））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度

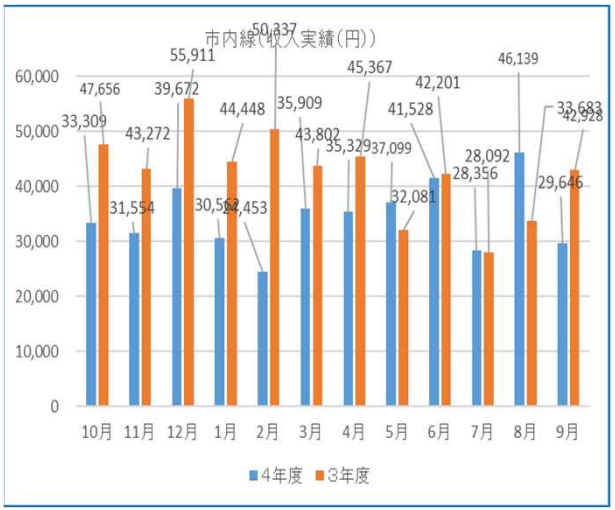

川湯線（利用実績（人））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度


市内線（利用実績（人））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度

４）収入実績


美留和線（収入実績（円））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度


川湯線（収入実績（円））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度


市内線（収入実績（円））
10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
4年度 3年度

5）事業実施の適切性

事業が計画どおりに実施されていない点があった。

6）目標・効果達成状況

令和4年度（R3.10～R4.9）の年間輸送人員は美留和線9,459人（9,398人）、川湯線で6,310人（4,531人）、市内線（1便、6便を含む）で3,545人（4,384人）となり合計輸送人員19,314人（18,313人）となった。

前年度対比では、新型コロナウイルスのワクチンの普及や感染状況の鈍化により、観光客利用の多い川湯線は昨年を大幅に上回る輸送人員（39%増）となった。一方、通院等での利用客の減少に伴い市内線は20%程度減少した。年間輸送目標の22,954人を約3,600人下回る結果となった。

※各系統の輸送人員（）は令和3年度事業の数値になります。

7）事業の今後の改善点

新型コロナウイルスワクチンの普及や、国や道の旅行支援等により観光客利用の多い川湯線の輸送人員が伸びたが、町民利用が多い市内線は伸び悩んでいる。

生活利用、観光利用の両方の課題解決に向け、網走バス㈱様が観光庁の「既存観光拠点の再生・高付加価値化事業」補助を受け、㈲摩周ハイヤー様に運行委託をする形で実施した循環バス実証運行（摩周のりとくバス）でも、市内利用よりも川湯・屈斜路地区での観光利用が多い結果となった。

今後改めて、町民のバス利用促進に向けた情報発信やアンケート調査等による当町のニーズにあった交通体系の把握を進める。

8）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価にて、事業が計画どおりに実施されていないとあるが、これは予定していたアンケート調査を行わなかったことによるものである。
- 目標を達成できなかったものの、分析しているとおり、川湯線においては観光利用による増加が伺えることから、観光施策とも連携した利用促進を行うとともに、地域公共交通網形成計画に基づく利便性向上の取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。